

拝啓 今年も早や5月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、つつじややまぼうしが咲いております。家の庭では、スイトピーのピンクの花が満開です。冬から最近まで、ビニールのひもで縛ってスイトピーのつるを上へ上へと伸ばしてきましたが、今軒下まで伸びて、満開の花を咲かせてくれています。苦勞が報われたという思いで、毎日道路側から眺めています。

今回は、カウマン夫人編著の「日の出に向かって」(日本ホーリネス教団出版部)の6回目です。6月29日の所に、次のように書かれています。

「あなたが寝る前に、色々困った事柄を静かに捨て去りなさい

ちょうどあなたの衣類を脱ぎ去るように

心配や悩みを捨て去りなさい

あなたの重荷と思ひ煩いを

祈りの静かな御腕の中におろしなさい」

とありますが、年を取ると体が思うように動かなくて、心配事が増えるような気がします。そのようなとき、私は、小西先生の教えにならない、「わが主イエスよ、わが主イエスよ」と主の御名を称えます。そしていくつもある眼の前の義務の中から、早くかたづけなければならない義務から着手します。そうすることによって、毎日やりくりをしています。

最近郵便で送られてきた「登戸学寮ニュース」に、理事長の福島^{あつし} 穆さん(前今井館教友会理事長)が、次のように書いておられます。

「社会人となって、教文館から新渡戸稲造全集が出版されたので、それこそむさぼり読んだ。…その衣服哲学のうち、深く私の心に刻まれているのは次の句である。“Do the Duty which lies nearest Thee.” 私はこれを次のように受け止めている。何をすればよいか分からなくなった時に、まず一番身近にある義務を果たせ。そうすれば次の義務が与えられるであろう。」

これを読んで、福島さん、あなたもこの言葉によって、毎日生活しておられるのですね！と、大変親しみを感じました。私は小西先生から教えられたこの言葉は、人生の難問を解くゴールデン・ルールのような気がしています。

5月10日、本誌読者の佐藤昭夫さん、パーキンソン氏病の村野憲政さんと、箱根の金時山に登って来ました。途中雷雨があつたりしましたが、計画通りの登山をしました。

5月12日には、多磨霊園の南原繁、矢内原忠雄、新渡戸稲造、内村鑑三、吉野作造などの諸先生のお墓参りという恒例の墓参を行いました。今年で15回目でした。

これから、梅雨の時期に入り、暑い夏がやってきますが、どうぞ皆様、健康に留意されて、毎日お元気でお過ごしください。

敬具

山口周三

平成30年5月24日

エンカウンターの読者各位